



海の子

浜松市立舞阪小学校
学校だより
令和7年11月17日

「あいさつ」を心掛けることで

校長 古川 里江

11月11日(火)は、「ひとりひとりにいい声掛けデー」でした。これは、大人が一斉に声掛け運動をすることによって、「地域の子供は、地域で見守り育てよう」とする意識を高めることを目的の一つとした取り組みです。朝には地域の方々が昇降口近くに立ち、登校する子供たちに挨拶をしてくださいました。また、この日は学校の職員も、子供たちへの温かい声掛けを意識し、いつも以上に、温かい言葉が学校全体を包んでいました。「あいさつ」は、人と人との関係を作る第一歩であるとともに、自分の行動を自分で律することにもつながると考えています。今後も、「あいさつ日本一」を目指すことを通して、将来この地域を支える子供たちのさらなる成長につなげたいと思います。地域・保護者の皆様、今後も子供たちへの挨拶、温かな言葉掛けをよろしくお願いいたします。

<11月10日朝会 校長の話>

昨日と一昨日は岐佐神社のお祭りがありましたね。私は毎年みなさんの手踊りや太鼓をたたく様子を見るのがとても楽しみです。実は私は西町に親戚があって、子供のころからお祭りを見に来ていました。昔は平日にお祭りがあったので、小学生や中学生のころは、学校が終わってから急いで舞阪に来ていました。今年もちろん朝からお祭りを楽しませてもらいました。たくさんの人に会って、お話したり手を振ってもらえたりしてうれしかったです。



お祭りには意味があります。今回のお祭りは町の安全と海の安全、豊漁を願ってのお祭りでした。ただ楽しむのではなく、何を願って何のためにお祭りが行われるのかを知ることで、お祭りに参加する気持ちもより高まると思います。

私は、今年は今回のお祭りだけでなく、弁天のお祭りや長池のお祭りも見学させてもらいました。どのお祭りにも言えることは、いつでもどこでもみんなが笑顔だったということです。舞阪小のみんなだけでなく、中学生や大人もみんな笑顔でした。みなさんが心からお祭りを楽しみ、お祭りが大好きだからだと思います。お祭りには人を笑顔にする力があります。

お祭りははじめとする、地域の行事に参加することは、あなたと町をつないでくれるとともに、あなたがその町の、その地域の大事な一員であることを表します。舞阪小学校には、たくさんの応援してくれる人がいます。お話をしに来てくれる人、いろいろなことを教えに来てくれる人、家庭科やクラブにお手伝いに来てくれる人などです。応援してくれるということは、舞阪小学校の子供たちのことが大好きで、舞阪小学校のために力を貸そうという気持ちをもってくださっているということです。私は、これからたくさんの人に応援してもらえる、地域の方から愛される舞阪小学校にしたいです。そのために、みなさんにもがんばってほしいことがあります。それは「あいさつ」です。舞阪小学校は「あいさつ日本一」を目指しています。おうちの方や友達、先生だけでなく、地域の方にもあいさつをできるようになりたいですね。できれば自分から進んであいさつできるようがんばりましょう。あいさつは、人と人との関係を作る第一歩です。登校した時の「おはようございます」のあいさつの他にも、あいさつはたくさんあります。相手もたくさんいます。家族や友達、先生、お客様や町の人など、いつでも、だれにでも明るく元気なあいさつをしようと心掛けていると、自分の行動を自分で気を付けることができるようになっていきます。そうすると勉強にも運動にもよい結果が表れるのではないかと考えています。これからもっと舞阪小学校のみなさんが、あいさつや礼儀がきちんとできる人になってほしいと願っています。